

議長定例記者会見 会見録

日時：令和7年1月16日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

○東海北陸7県議会議長会議の開催について

○第9回全国自治体議会改革推進シンポジウムの開催について

2 質疑項目

○新年の抱負について

○第9回全国自治体議会改革推進シンポジウムについて

○海外との連携について

○特別職報酬等審議会の答申について

○東海北陸7県議会議長会議について

○参議院議員選挙について

1 発表事項

○冒頭発言

(議長) 皆さんおはようございます。改めまして新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。ただ今から1月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。新年を迎えまして、一言申し上げたいと思います。1月20日から令和7年定例会が開会いたします。先般の執行部からの要請を受けて、この日には急遽、国の物価高騰対策に対応するための補正予算を審議することにいたしました。まずは、一日でも早く県民の皆さんに対策の効果をお届けできるよう、慎重かつ迅速な審議を行いたいと考えています。また、2月17日からは、2月定例会が始まります。令和7年度当初予算についての審議を中心に進めることとなります。子どもを守り育てる取り組みや、防災・減災の取り組み、人口減少や人材確保の対策、県内産業の成長支援や観光振興など、さまざまな課題に対し、私たち議会からの申し入れや提言等を踏まえた効果的な取り組みとなっているか、しっかりと審議する必要がありますので、全議員が本会議、委員会等を通じて活発に議論できるよう、副議長とともに、しっかりと議会運営に当たっていきたいと思います。今年も全議員が県民の皆さまの負託に応えるべく、懸命に取り組んでまいりますので、引き続き皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。今年最初の記者会見でありますので、副議長からもお願いしたいと思います。

(副議長) 改めまして、新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。座って失礼します。私は、広聴広報会議の座長という

立場でございますので、広聴広報について一言申し上げます。広聴広報の取り組みは、「開かれた議会」を進めるうえで最も重要な役割であると考えております。昨年は、「みえ高校生県議会」でいただきました高校生の質問や提案を県政に反映していく仕組みを整えるなど、新たな取り組みを進めてまいりました。今年も引き続き、「若者の政治への関心を高める」ことを意識しながら、多くの県民の皆さんに県議会の活動への関心を持っていただけるよう、引き続き広聴広報の取り組みを進めていきたいと思っておりますので、記者クラブの皆さまには変わらずご協力のほど、よろしくお願いいたします。私からは以上です。

○東海北陸 7 県議会議長会議の開催について

（議長）それでは発表事項に移りたいと思います。本日は 2 点ございます。まず、「東海北陸 7 県議会議長会議の開催」について発表させていただきます。お手元の発表事項 1 の資料をご覧ください。東海北陸 7 県議会議長会議では、各県議会が緊密な情報交換を行い、地方自治の発展に資することを目的とし、各県の正副議長が出席して、年 2 回会議を開催しており、今年度 2 回目の会議を県内で開催いたします。なお、県内での開催は、平成 29 年以来 7 年ぶりとなります。開催日時と場所ですが、1 と 2 に記載のとおり、1 月 30 日木曜日の 15 時から 17 時まで、ホテル津センターパレスで開催します。会議の内容ですが、4 にありますとおり、各県議会から提出された議案を審議し、東海北陸 7 県議会議長会議として国に対して要望する事項を決定するほか、全国都道府県議会議長会からの地方自治・地方議会に関する報告を受け、意見交換などを行う予定です。また、議事後には、講演を予定しています。今回は、令和 15 年の式年遷宮に向けた三重県の情報発信をするとともに、地域資源を生かした観光施策の参考としていただくため、文筆家で皇學館大学非常勤講師の千種清美様から、「日本の心と技を伝える～神宮式年遷宮を通して～」と題して、付加価値のある文化観光地域づくりについてご講演をいただきます。私としましては、この会議を通じて東海北陸 7 県議会の課題や思いなどを共有し連携を深めることで、ともに発展できるようにしていきたいと思っております。

○第 9 回全国自治体議会改革推進シンポジウムの開催について

（議長）次に、「第 9 回全国自治体議会改革推進シンポジウム」の開催について発表させていただきます。お手元の発表事項 2 の資料をご覧ください。三重県議会では、分権時代を先導する議会を目指して、議会改革に積極的に取り組むとともに、改革の輪を広げる取り組みを行ってきたところです。その取り組みの一つとして、全国の自治体議会議員の交流・連携を図ることを目的に、「全国自治体議会改革推進シンポジウム」をこれまで 8 回開催してまいりました。このたび、第 9 回目のシンポジウムを 8 年ぶりに開催することとなりました。日時と場所ですが、1 に記載のとおり、3 月 26 日水曜日の 13 時から、都ホテル四日市に

において開催させていただきます。開催テーマについては、2に記載のとおり、「議会改革の推進と女性や若者等多様な人材の活躍」としました。これまでも取り組んできた議会改革の推進と、現在、社会的な課題となっている多様な人材の議会への参画や活躍についての両面から意見交換を行う予定としております。内容については、3に記載のとおり、第33次地方制度調査会の副会長でもある駒澤大学名誉教授、大山礼子様の基調講演、その後、大山名誉教授のコーディネートにより、県内外の女性議員や若手議員、企業で社員として勤務しながら活躍されている議員と私でパネルディスカッションを実施します。その後、昨年、賞をいただき、また他の議会から問い合わせ等がある議会活動計画など、三重県議会の取り組みを報告いたします。主な参加者は、全国の自治体議会の議員であり、各議会に開催案内を送付し、参加者を募集します。また、お席に限りはありますが、一般の方も参加可能とします。申し込み方法については、裏面の5にありますように、ホームページに掲載する申し込みフォームにより申し込んでいただく形とします。申し込み期間は、明日1月17日から2月28日までとしますので、報道機関の皆さまには当シンポジウムの情報発信につきまして、ご協力くださいますよう、よろしく願いいたします。私からは以上です。

2 質疑項目

○新年の抱負について

（記者）幹事社代理のほうからお尋ねさせていただきますので、お願いします。議長、冒頭に今度の本会議のことであつたりとか、予算等の審議について語っていただいたと思うんですけど、議長任期までの間、新たに取組みたいことであつたりとか、これまでの取組みを進められたいこと、何か目標であつたりとか抱負あればお願いします。

（議長）年末の記者会見のときにも来年に向けてっていうことで少し申し上げたんですけども、やはり若者、そして女性の政治参画ということで、12月には経済4団体を回らせていただきました。これはすぐに結果が出るものでもないのでもしっかり腰を据えて取り組んでいく、じっくりやる課題だと申し上げましたけれども、今年もそんな取組みをさらに広げていきたいという思いも込めて、この議会改革シンポジウムを開催させていただきますし、そんな取組みに力を入れていきたいと思っています。それとともに、年末も申し上げましたとおり、12月のときに申し上げましたとおり、所信のときに、海外との連携を議会としてもしっかり強化していきたいという話を申し上げましたので、議連も活発な動きもしていただいておりますし、何とか任期中にそういった海外との取組みもより広げられるような取組みをいたしたいなと思っています。

○第9回全国自治体議会改革推進シンポジウムについて

(記者) その抱負の一つにあったシンポジウムの件に移りますけれども、議長としては、多様な意見を反映するっていう演題であったりとか、高校生県議会もですけど、これまでの県議会の取り組みも踏まえて、いろいろお話されたりとか、成果、課題を共有されるのかなと思うんですが、抱負お願いいたします。どのように取り組まれるのか。

(議長) シンポジウムのほうには私もパネリストとして出席をさせていただいて、先ほど申し上げました若者や女性の参画ということについて、現場で活躍いただいている議員の皆さんとともにいろんな話をしながら、それぞれ情報共有もさせていただきながら発信ができたかなと思っておりますし、三重県議会、これまでさまざまな取り組み、改革してきていますので、そういった三重県議会の改革の取り組みについても、多くの自治体議員の方が参加をいただく予定ですので、しっかり発信をさせていただいて、そしてより良いものにお互いできたらかなと思っています。

○海外との連携について

(記者) あと、海外との連携についても言及いただきましたけれども、任期中に具体的にどのような取り組みを進められるかというのが、今決まっていたりとか、考えがあれば教えてください。

(議長) 今、いろんな議連の活動も活発にやっていただくようにということもお願いもし、またそのようにしていただいていますので、そんな取り組みが広がっていけばと思っていますし、いろいろ新たな議連も考えていこうという動きもありますので、そういった取り組みなんかも形にできたらかなと思っています。

(記者) 例えば具体的に海外というと、どこの国ということであったりとか、ターゲットというか、そういったお考えは。

(議長) 今知事ベトナムへ行かれていますけれども、ベトナムとの議連というのはもう既に県議会に立ち上がってしまっていて、知事のそういった動きとともに、ベトナム議連のほうもしっかりやっていただきたいと思っていますし、昨年、三重県はインドネシアとの協定(正しくは、「覚書」)を結びまして、介護・医療(正しくは、「介護・看護」)の関係の人材交流をしっかりやってこうということで、そういった協定(正しくは、「覚書」)が結ばれ、これから具体的な動きになっていくと思っています。そういう中、議会としてもそういったものにコミットしていくというのは大事だと思っていて、例えばですけれども、そういったインドネシアの議連を作っていくとか、そういった県の方向性に賛同できる議会の者たちでそういった議連を作ってバックアップしていくという体制も必要か

など思っています。

○特別職報酬等審議会の答申について

(記者) 分かりました。ありがとうございます。年頭の抱負とシンポジウム、それから7県議長会議の発表について質問があればお願いします。よろしかったですか。では発表項目以外でお尋ねさせていただきます。先月のことなんですけれども報酬審議会がですね、知事、それから他の特別職ですね、あとは議員の方、報酬、これを引き上げるようにという答申がございました。引き上げれば、改定29年ぶりということになるんですかね。議員報酬も、議長は15,000円でしたかね。14,000円でしたか。16,000円でしたね。副議長は14,000円。議員報酬は13,000円の引き上げという答申でしたけれども、この引き上げについて率直に議長としてはどのように答申を受けとめておられるか。引き上げの感想、答申の感想を。

(議長) 客観的データとかをもって、専門家の皆さんが審議会の中で判断いただいたってということだと思っています。ただ、答申を踏まえてこれから議会で審議してくことになろうかと思しますので、一応中立の立場ということもございしますので、それに対して所感を述べることは差し控えたいなと思っています。

(記者) 改定する場合は4月1日からという答申の内容になっていますけれども、例えば議論のプロセス、スケジュールを含めてどのように想定されているか、教えてください。

(議長) 今後、知事のほうから、まずは今回の審議会の答申に対してどうしていくのかということ、条例案を知事のほうが出されるのかどうかということをしつかりと見極めていく必要があるのかなと思っています。それが出ればしっかりと審議をさせていただくことになろうと思いますが、まだ今の段階では、知事がどういった条例案を出すのか出さないのかということもまだ聞いておりませんので、その辺り見極めて審議をしていくという形かなと思っています。

(記者) そうすると知事が、例えば引き上げるのか、どうするのかこの意向を表明した後に、県議会での議論に移るという流れですか。

(議長) 議会のことについては、当然議会で決める必要があると思っていますので、知事のそういった条例案のどういう中身というか、出すのか出さないかも含めてそれを見極めた上で、議会としても、じゃあ議会どうするのかということもしっかり議論をした上で、条例案を出すか出さないかということも含めて議論

することになろうかなと思っています。

(記者) 議会のことは議会で決める、条例案を出すのか出さないのか、そのご発言を踏まえると、議会として議員報酬について判断する場合は、議員提出ということになる方向ということになりますか。

(議長) 議員報酬に関しては議員提出で、と思っています。

—第二県政記者クラブも含めてお願いします—

(記者) 今の報酬の関連ですけど、昨日か一昨日あれ代表者でしたっけ、議運でしたっけ、そこで草莽の倉本さんからちょっと質問が出てて、前回のときは一応当局側からの案を出して、今回は議会から出すと。議提にすると。そういうふうにしていった意図はなんですか。

(議長) 前回ってかなり前ですけども、前回のは当局側からという形になっています。その後、期末手当の改定があったときに、議員提案でやるという議論を代表者会議でして、代表者会議だったと思うんですけど、議員提案でやるということに決まって、期末手当を改定する場合は議員提案でずっとやってきたという経緯もあります。その後の経緯で。それで報酬に関しては今回それ以降初めてです。改めてあの場でご議論いただいて、どうするかという判断をしていただいたということでもあります。

(記者) ということは議提と決めたわけじゃないんですか。

(議長) あの場で決めました。

(記者) その場で決めた。

(議長) はい、その場で、代表者会議でお諮りをさせていただいて、これまで執行部提案で、だいぶ前ですけども、何十年と改定がなかったのです。

(記者) そこに公明とか共産とか、少数会派の意見を聞いているんですか。

(議長) 代表者会議の中でご議論いただいて決定をしたということです。

(記者) いやだから聞いてるんですか。

(議長) もちろん。

(記者) それを倉本さんが代表して少数会派の一応代表格で代表者会議出てるんで、そこは要は倉本さんのほうから言ったという形になるわけですか。

(議長) 倉本さんのほうから、こういう声もありましたという確かご意見があつて、それを踏まえて倉本さんもお了解いただいたということだと思います。

(記者) 思うだけで実際そうじゃないんですよね。私が聞いたところによると、少数会派のほうは別にそういう話はなかったと。議長も常々少数会派の意見を大事にしたいみたいなことをおっしゃってるけど、実際は、これに関しては、そうではないというのと、あと前回当局がやったから、姑息かもしれないけど逆に議提でやると県民の批判を浴びやすいので、やっぱり当局側でいいんじゃないかっていう意見も草莽の中にあつたみたいで、だから多分倉本さんはその確認をされたと思うんですけど、その辺はどう思われます。

(議長) おそらくそのような意見があつたかどうか知りませんが、倉本さんのほうから代表者会議でそのような意見が出されて、これまでの経緯、それぞれの今日までの経緯を事務局から説明をし、倉本さんも了解をいただいて、議員提案で提出するということが決定したということでもあります。

(記者) とにかく議提でやるということですか。

(議長) そうです。

○東海北陸 7 県議会議長会議について

(記者) あと東海北陸 7 県議会議長会議なんですけど、さっき議長が平成 29 年以来とおっしゃいましたよね。前회가。

(議長) そうですね。

(記者) 7 年ぶりって 8 年ぶりじゃないですか。今年が平成 37 年に当たるんで、29 年前回開催なら 8 年ぶり。

(議長) ちょっとごめんなさい。そこの計算は、年度でいっとると。

(記者) 年度だろうがなんだろうが。じゃあ前回何月に。

(議長) 29年6月です前回は。6月なので合いますか。7年ぶりです。

(記者) いや合わんでしょう。だって平成37年でしょ。今年が平成にすると。だとしたら8年ぶりじゃないですか。

(議長) また後で確認します。平成29年の6月に開催しているのが前回です。

(記者) この議題が、議事内容が、各県の提出議案に基づいて審議となっているんですけど、三重県はどういうことを出されるんですか。

(議長) 三重県は、一応今のところは「カーボンニュートラル実現に向けた自動車産業への支援の拡充等について」という意見書を、三重県からの意見として提出しようと思っています。

(記者) 自動車産業の拡充。

(議長) 自動車産業への支援の拡充等について。

(記者) 具体的にはどう、電気自動車とかそういう意味じゃないんですか。

(議長) カーボンニュートラル、これはそれぞれの県議会で意見書を可決してますけれども、その中で、代表してというか、いくつか可決した中で、これを東海北陸の議長会でも、国に対して要望してほしいというものを、それぞれの県議会が選んで出していまして、三重県議会でも、この意見書についてこの一年で可決したものであります。その中で一つ選ばせていただいて、他とのだぶりのないようという調整もさせていただく中で、今回これを選んだということです。

(記者) 他県とだぶったらまずいんですか。

(議長) 別に問題ないんですけれども、その調整も開催県ということできせていただいたということで、だぶっても別にまずいわけではないです。

(記者) いやだから、全国知事会含めてリニアの関係で、例えば名古屋から以西を、大阪までの西を先に工事やったらどうかとかそういう要望も出てて、今回内閣参拝のときも、そのリニアに関してみたいな話が出てて、それからいくとリニア停車駅を持つ三重県として、北陸新幹線の整備促進があるならば、その辺のことも議題にあってもいいんじゃないかと思うんですが、そこは内々でやるときに全然そういう話は出なかったんですか。

(議長) 東海北陸7県の議会での共通テーマについて議論することが一番いいと思っていますので、当然リニアの課題、三重県はありますけれども、三重県は一方、近畿の議長会にも入っております、例えばそちらのほうで議論して、国へ提出していくというほうが、今おっしゃっていただいたリニアに関しては、妥当かなと思いますので、今回東海北陸ではこのような形で議論させていただきます。

(記者) あと講師が千種さんに決まったのはなぜなんですか。

(議長) 今回いろんな方を副議長とも協議をさせていただく中で、やはり観光振興というのは三重県が力を入れていることと、来ていただいて三重県の独自のというと、式年遷宮というのは、三重県独自の非常に重要な行事ごとというか、20年に1回の出来事です、他の県の方たちも関心も持っていていてということもありますので、そういったテーマでやろうということで決定いたしました。

(記者) いやそれは講師をそういう形で呼ぶっていう決定はそれでいいけど、千種さんに決めたのはなぜなんですか。

(議長) いろんな方、当然検討した中で、一番、先ほど申し上げました内容について講師としてふさわしいかなっていう判断です。

(記者) 式年がテーマなら、私も千種さんは存じ上げてますけど、文筆家でいらっしゃるから、ある程度創造性働かしてのお話はされると思うんですけど、具体的に他県の議員の方はほとんど式年遷宮についてご存じないと思うんで、そのことなら、例えば今、神宮司庁の広報の音羽さんとかのほうが多分的確に話されると思うんですけど、音羽さんとかは^{そじょう}俎上に上らなかつたんですね、正副議長で話しされたときに。

(議長) どなたが^{そじょう}俎上に上ったか上らなかつたかは別として、いろんなことを検討した中で、式年遷宮のことを伝えるというよりも観光振興がテーマですので、式年遷宮ももちろんですけど、それを踏まえた観光振興というテーマで一番適任者ということで判断をさせていただきました。

(記者) それぞれ考え方があってるんだろうけど、観光振興をもともと神宮司庁の中

で推進したのが音羽さんで、だから前回式年遷宮であれだけ 1,300 万人の人が集まって、前の 61 回のときよりもはるかに取材もやりやすかったし、そこを広げたんですよね。そういうことも踏まえて音羽さんが^{そじょう}俎上にのったかどうか知らないですけど、そういう選択もあったんじゃないですかね。

(議長) どの方がどうか^{そじょう}俎上にのったかとか申し上げることはありませんけれども、いろいろ考慮した中で、この方が一番適任だという判断をいたしました。

(記者) 正副のお二人で決めたんですね。

(議長) そうですね。

○第 9 回全国自治体議会改革推進シンポジウムについて

(記者) あと議会改革シンポなんですけど、8 回目はいつどこでやったんですか。

(議長) 8 回目どこでしたっけ。それだけ言ってもらえます。

(事務局) 8 回目が、平成 28 年 11 月 9 日に四日市都ホテルで開催をしております。

(記者) これ 1 回目のやつが花水木でやったやつでしたっけ。

(議長) 違うね。都ホテルでしたね。

(事務局) 都ホテルです。

(記者) 1 回目のとき知事が北川さんのときのでいいんですよね。

(事務局) 平成 17 年が第 1 回ですね。

(議長) ということは野呂知事ですね。

(記者) 北川さんじゃないんだ。四日市都ですよ。これ演題が「多様な意見を反映する議会」ってあるじゃないですか。もう少し具体的にいうとどういうことに。これは広報ツールを広げようとかそういう話なんですか。それとももう少し何か具体的にありますか。

(議長) 多様なというのは、当然、多様なですからいろんなものがあるんですけども、今回は特にその中でも若者と女性の政治参画というのに絞ってやらせていただきたいと思っています。

○参議院議員選挙について

(記者) あとその他関係ですけど、議長は立憲民主党の党员ですか。

(議長) 違います。

(記者) なんか立憲さんの中で、参議院候補で稲垣議長のお名前が挙がってるんですけど、信ぴょう性ってのはどのくらいあるんですか。

(議長) そんな噂があがっていることも知りませんし、私自身は党员でもないので、まったく、何ていうんですかね、信ぴょう性ないってということだと思います。その噂があるなら。

(記者) 信ぴょう性はゼロってことですか。

(議長) ゼロです。

(記者) 仮に話があった場合も、別にそれは受けない。

(議長) 私は今議長させていただいていますので、しっかり議長職を務めていきたいと思っています。

(記者) でも選挙は7月ですよ。

(議長) 5月までしっかり議長努めていきたいと思っています。

(記者) 分かりました。それにとどめておきましょう。

○第9回全国自治体議会改革推進シンポジウムについて

(議長) 先ほどの7年ぶりか8年ぶりのだけ確認してもらいましたが、7年7カ月ぶりってというのが正確にいうと正しいようで、約8年ぶりでも約7年ぶりでもどちらでもいいのかも分かりませんが、正確には7年7カ月ぶりということです。

(記者) 8にしときます。

(議長) どちらでも。

(記者) ありがとうございます。

(議長) それではどうもありがとうございました。

(以 上) 10時58分 終了